

# はれやう。

## 第17号

平成30年11月発行

### 岩藤医療保健福祉グループ

水が迫るクリニック玄関前

岩藤医療保健福祉グループ

医療法人 知誠会

社会福祉法人 赤磐中央福祉会

理事長 岩藤 知義



この秋、本庶佑氏ノーベル医学生理学受賞のニュースに心が躍りました。免疫反応を阻害する物質を突き止めノーベル賞に輝いた事は感動的です。私も40年程前にはがん抗原を求めて研究していました。臨床使用では免疫賦活剤として医薬品の認可のあるピシバニール、クレスチンや認可のない丸山ワクチン等が使われていました。エビデンスのない免疫療法に対しては厳しいコメントもあり、当時からすれば隔世の感があります。

一方この夏は、これまで私が院内報に度々書いて訴えてきた地球温暖化の弊害が、現実のものとなりました。豪雨、水害、山崩れ、地震など、北から南まで今年は一挙にやってきた感があります。何も策を講じない現状では、今後頻度が増すとともに被害の拡大は計り知れません。

7月6日深夜の雨音は不気味で恐怖感すら覚えました。目覚めとともに辺りの豹変ぶりに目を疑い、思わず絶句、啞然としました。当院はモンサンミッシェルの如く水面から浮かんでいきます。周囲の道路が膝上10cmの冠水でした。開院時間になって透析の患者さんが続々到着するも、玄関前まで車を寄せることができません。職員の誘導で全員、水の中を通過して、透析室に入っていました。

降り続いていた雨も午後には小降りとなり、夕方ごろになって水が引き、安堵しました。

原因は砂川の決壊による水害とわかりました。砂川改修が急務であろうと考えた私は、クリニック受付に地元の議員さんと被災患者さんを結ぶ意見箱を設けました。聞き取りにて皆さんが熱く語ってくれる情報は、実に生々しいものでした。得られた情報を壁新聞として院内に張り出しました。砂川の守り人が必要です。避難所である平島小学校は浸水して用をなしていませんでした。行政は現状を把握できず、メディアも県西部に目が奪われ、被害が過少と平島の現状は報道にもならず、結果として救済物資も十分には届きませんでした。日頃からの近所付き合いを密にし、共助の精神が必要です。身近で一番頼りになるのは消防団でした。今回水が出たのは深夜二時頃にもかかわらず、消防団が一軒一軒ドアをたたいて避難を促しました。後に、「自分は大丈夫」と言う正常化バイアスが働き重大災害であることを認識できず、自宅に居残ってしまう人が実に多いという事がわかりました。死者が出なかったのは不幸中の幸いでした。多くの教訓を学びました。

老人保健施設（アルテピアセト）は在宅支援施設と明記され、地域に開かれた施設として社会貢献活動にも取り組んでいます。中学校区に一つ設置される老健は多職種のスタッフをかかえており認知症対応の中核施設という役割に加えて、有事には避難所として活用することもできます。この度の水害においても在宅で過ごされた被災者の方々のレスパイト入院にも役立つ施設であることを有床診療所ともども知っていただきたいと願っています。

